

地震工学委員会

平成 19 年度第 1 回（通算第 23 回）委員総会 議事録（案）

日時 : 平成 19 年 5 月 10 日（木）

場所 : 土木学会講堂

総会成立の確認

委員総数 112 名に対して、1/2 以上にあたる 87 名が参加（出席 52 名、委任状 35 名）し、総会として成立することが確認された。

配布資料

資料 23-1 平成 18 年度第 2 回（通算第 22 回）委員総会 議事録（案）

資料 23-2 平成 19 年度委員名簿

資料 23-3 平成 19 年度運営幹事会メンバー表

資料 23-4 平成 18 年度活動概要・平成 19 年度活動計画（案）

資料 23-5 「地下構造物の合理的な地震対策研究小委員会」設立趣意書案

資料 23-6 平成 19 年度地震工学委員会の運営（案）について

資料 23-7 研究小委員会の終了報告

資料 23-8 第 29 回地震工学研究発表会準備状況報告

資料 23-9 平成 19 年度全国大会研究討論会一覧

議事

1. 開会挨拶（家村前委員長）

小委員会活動が活発に行われていることに言及した上で、委員長退任にあたっての挨拶が行われた。

2. 議長選出（佐藤幹事長）

特に立候補者がいなかったため、運営幹事から川上英二委員を推薦し、満場一致で選出が承認された。

3. 前回議事録（案）の確認（佐藤幹事長）

- ・一部修正事項を確認し、承認された。

4. 平成 19 年度委員名簿、顧問の推薦（川島委員長）

- ・新規委員 8 名の紹介と挨拶が行われた。
- ・7 名の新顧問の推薦につき説明があり、承認された。

5. 副委員長、運営幹事の選出（川島委員長）

- ・ 川島新委員長より挨拶が行われた。
- ・ 内規に従い委員長より副委員長に九州大学大学院大塚委員が指名され、承認された。
- ・ 五十嵐委員の任期満了に伴い、広島工業大学酒井委員が新任選出され、承認された。

6. 平成 18 年度活動概要・平成 19 年度活動計画（案）について

(1) 地震工学委員会（佐藤幹事長）

- ・ 平成 18 年度調査研究費支出報告の説明が行われた。
- ・ 平成 19 年度活動計画（案）の内容について説明が行われた。
- ・ 平成 19 年度活動計画（案）の「8.小委員会主催の各種行事の開催」については、各小委員会から提出されている平成 19 年度計画の承認確定後に記載する。

(2) 運営幹事会（佐藤幹事長）

- ・ 平成 18 年度活動概要および平成 19 年度活動計画（案）について説明が行われた。

(3) 小委員会

- ・ 耐震基準小委員会（酒井委員）より平成 18 年度活動概要と平成 19 年度活動計画（案）の説明が行われた。
- ・ 地震防災技術普及小委員会（大野委員）より平成 18 年度年度活動概要と平成 19 年度活動計画（案）の説明が行われた。
- ・ 地震被害調査小委員会（橋本委員）より平成 18 年度年度活動概要と平成 19 年度活動計画（案）の説明が行われた。
- ・ 地震時保有耐力法に基づく耐震設計法研究小委員会（幸左委員）より平成 18 年度年度活動概要と平成 19 年度活動計画（案）の説明が行われた。
- ・ 統合地震シミュレータ研究開発小委員会（市村委員）より平成 18 年度年度活動概要と平成 19 年度活動計画（案）の説明が行われた。今年度 8 月をもって当初予定通りに活動を終了する予定である。
- ・ 津波被害推定ならびに軽減技術研究小委員会（藤間委員）より平成 18 年度年度活動概要と平成 19 年度活動計画（案）の説明が行われた。
- ・ 震度計の設置促進と震度データの利用高度化に関する研究小委員会（片岡委員）より平成 18 年度年度活動概要の説明が行われた。当初予定通りに平成 19 年 3 月で活動を終了した。
- ・ 断層変位を受ける橋梁の計画・耐震設計に関する研究小委員会（大塚副委員長）より平成 18 年度年度活動概要と平成 19 年度活動計画（案）の説明が行われた。
- ・ 数理物理的手法に基づく耐震設計法の新展開に関する研究小委員会（本田委員）より平成 18 年度年度活動概要の説明が行われた。当初予定通りに平成 19 年 3 月で活動を終了した。
- ・ 地震リスクマネジメント小委員会（家村委員）より平成 18 年度年度活動概要と平成 19 年度活動計画（案）の説明が行われた。
- ・ 地震動研究の進展を取り入れた公共社会インフラの設計地震力に関する研究小委員会（川島委員長）より平成 18 年度年度活動概要と平成 19 年度活動計画(案)の説明が行われた。

- ・ 上記各委員会の平成 19 年度活動計画（案）について承認された。
- ・ 地震工学に関するテキストが少ないと思われるので、今後も有効な活動を通してテキストとして出版できるものを出していくのがいい（川島委員長）。
- ・ ギリシャWSも継続的にやっていってほしいとのコメントがあった（川島委員長）。

7. 小委員会設置について

- ・ 「地下構造物の合理的な地震対策研究小委員会」の新規設立については、すでに承認されている。ただし、具体の活動については、委員長候補の大塚副委員長が小委員長をしている「断層変位を受ける橋梁の計画・耐震設計に関する研究小委員会」の活動が一段落する研究発表（土木学会全国大会など）以降に正式に開始するという事で承認された。

8. 地震工学委員会の運営（案）について（川島委員長）

- ・ 平成 18 年度の活動結果より A 評価を受けることができ、今年度活動予算として 150 万円程度を確保することが可能となった旨の説明が行われた。
- ・ 地震工学研究発表会については、情報提供・交換を活発化すること、特に若手の研究者を対象とした表彰機会を多くすること、発表会運営を効率的に行うこと、土木学会の中での地震工学委員会の A 評価を維持（活動費用の常時確保）すること、を理由として毎年実施する方向で検討する旨の説明が行われ、具体の検討方法として、アンケート調査を実施する提案がなされ、承認された。
- ・ 委員会活動を行う上での旅費の利用については、他の委員会との兼ね合いもあるので、それらにも配慮して運営方法の改善などについて検討していく旨の説明が行われた。

9. 報告事項

- ・ 「震度計の設置促進と震度データの利用高度化に関する研究小委員会」の終了報告が行われた。
- ・ 「地下構造物の合理的な耐震対策検討小委員会」の終了報告が行われた。
- ・ 地震工学研究発表会準備状況の報告が行われた。
- ・ 平成 19 年度全国大会討論会の企画についての報告が行われ、受付 02 の概要説明についての訂正があった。

10. その他

- ・ 特になし

11. 閉会挨拶

川島委員長よりの閉会挨拶とともに総会が終了した。